

令和6年度 学習分析事業 課題改善シート 三原市立三原小学校

【別紙1】

1 本年度の結果

①学力定着分析 NRT 偏差値平均

		2年	3年	4年	5年	6年	全体
国語	前年度結果 偏差値平均	/	50.3	53.6	51.2	50.9	51.1
	本年度結果 偏差値平均	52.6	50.7	52.3	52.1	48.2	51.1
算数	前年度結果 偏差値平均	/	50.2	55	53.5	52.2	52.4
	本年度結果 偏差値平均	52.2	52	54.6	54.5	53.3	53.4
理科	前年度結果 偏差値平均	/	/	/	50.5	49	49.6
	本年度結果 偏差値平均	/	/	54.6	50	50.9	51.7
全体	前年度結果 偏差値平均	/	50.2	53.9	52.6	50.7	51.5
	本年度結果 偏差値平均	52.3	51.3	53.8	52.2	50.7	52

③全国学力・学習状況調査 正答率平均

教科	国語	算数
前年度結果 (対県比)	71 (103)	64 (100)
本年度結果 (対県比)	68 (98)	67 (104)

2 令和5年度について

①調査から明らかになった課題

<p>【年度当初の学力について】(NRTをうけて)</p> <p>●国語科では、考えや感想を持って伝え合う(51.5%)、文章を整え感想や意見を伝え合う(40.7%)、漢字の書き、考えや感想を持って伝え合う(35.3%)、情報を選び構成を考えて話す(41.2%)に課題があった。</p> <p>●算数科では、かっこを用いた式・四則の性質(55.5%)、平面図形の性質、面積(56.2%)、分数(64.8%)に課題があった。</p> <p>●理科では、磁石の性質(48.2%)、乾電池の働き(51.9%)、物の溶け方と水溶液の重さ(55.5%)に課題があった。</p>	<p>【年度当初の学力について】(全国学力・学習状況調査をうけて)</p> <p>●国語科では「原因と結果など情報と情報との関係について理解している」問題1ー(61.8)、「目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することができる」問題2ー(88.2)、「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができる」問題2二(66.2)に課題があった。情報を結び付けて考えることや要約など、「書くこと」についての課題が大きい。</p> <p>●算数科では「伴って変わる二つの数量の関係が、比例の関係であることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えや式を言葉を用いて記述する」問題1(3)(52.9)、「2位数÷1位数」のひっ算について、図を基に各段階の商の意味を考えることができる問題3(4)、「百分率で表された割合について理解している」問題4(1)(35.3)に課題があった。また、全国と比較して数値は上回ったものの図形の性質を利用した問題にも課題がある。</p>
---	--

②課題改善に向けた学校組織全体の重点目標・取組

重点目標（何を、どの程度達成するか）	達成のための具体的取組（どのようにして）	スケジュール	検証の指標・目標
<p>【授業改善を通じた学力・学習意欲の向上】</p> <p>○問い・全員参加を意識した授業改善により授業力を向上させる。</p> <p>○児童が基礎的基本的な学力を習得できるようにする。(学期末テスト1、2年:90点以上の児童90%以上、3～6年:80点以上の児童80%以上)</p> <p>○児童の学習意欲・期待感を向上させる。(児童アンケートによる肯定的評価80%以上)</p>	<p>①NRT・全国学力の問題を解いて、偏差分析を行い、課題の単元について教材研修を行い、校内研究を実施する。</p> <p>②課題克服や基礎的な学力を身に付けるために、取組を実施する。</p> <p>③「桜山タイム」を全校で実施する。(国語・算数・理科)</p> <p>④9月～学力分析の結果から類似問題を作成し、取り組み後、再度類似問題を解くことで定着度を確認する。</p> <p>⑤10月～「桜山タイム(じっくり)」の時間にNEや読み取り、聞き取り問題に取り組み、感想文を書いたり伝え合ったりする活動を月1回取り組む。(1か月の中で類似問題に取り組みむとNEなどに取り組む時間を設定し、全校で取り組んでいく)</p> <p>⑥各学年の課題に応じた理科の家庭学習を取り入れる。</p> <p>⑦第1火曜日、第3水曜日の学力補充では、40%未満の児童に重点をおき指導する。</p> <p>⑧各学期に1回以上の相互参観を実施する。(参観シートをもとに相互評価を行う)</p> <p>⑨各学年や授業の「問い」づくりを意識して、協働して教材研究に取り組む。</p> <p>⑩資質・能力のルーブリックを児童と作成し、見直しを繰り返しながら共有する。</p> <p>⑪ICT・思考ツールの活用事例の交流、研修する。</p>	<p>①7月～3月</p> <p>【分析・研修:8月、校内研修:年間1人1回以上】</p> <p>②4月～</p> <p>【桜山タイム:週3回】【理科の家庭学習:通年(週末)】</p> <p>③4月～【各学期に1回以上】</p> <p>④4月～3月【週1回以上】</p> <p>⑤4月～【作成、見直し:学期に1回】</p> <p>⑥8月、12月</p>	<p>・教師用アンケートによる肯定的評価80%以上(各学期末実施)</p> <p>・児童アンケートによる肯定的評価80%以上「学習を楽しむことができた」学習を通して成長したと思う(各学期末実施)</p> <p>・QUIにおける学習意欲得点で、28点以上の児童の割合80%以上(各学期)</p> <p>・国語科(漢字・学期末の平均)、算数科(学期末)のテスト</p> <p>1・2年…90点以上の児童90%以上</p> <p>3～6年…80点以上の児童80%以上</p> <p>・NRTにおける課題のあった問題の正答率アップ(学期末)(2か月に1回)</p>
<p>【学級・学習集団づくり】</p> <p>○学級におけるルールを明確にし、学校生活の環境を整える。</p> <p>○児童一人ひとりの役割を明確にし、居場所を実感できるようにする。</p> <p>○自他の良さ・魅力を認め合えるようにする。</p>	<p>①担任等による児童面談を実施する。</p> <p>②係活動を明確化し、定期的に振り返る場を設定する。</p> <p>③児童における自治活動を積極的に取り入れていく。</p> <p>④グループエンカウンター・ソーシャルスキルトレーニングを実施し、お互いを認め合う時間や関わり方を知る時間を設定する。</p>	<p>①いじめアンケートと同時期</p> <p>②7月、12月、3月</p> <p>③月1回の委員会活動</p> <p>④2か月に1回各クラスで実施し、その後職員で児童の様子や効果について交流する機会を設ける。</p>	<p>・QUの1回目と2回目の結果比較(満足群の増加、不満足・要支援の減少)</p> <p>・QUIにおける三次支援の児童数の減少</p>

3 令和6年度について

①調査から明らかになった課題

<p>【学力調査について】(NRTをうけて)</p> <p>●国語科では、文や文章を正しく書く(32.0%)、内容の大体を捉える(47.6%)、情報を選び構成を考えて話す(38.6%)、漢字の書き・仮名遣いや複合語等(53.5%)、考えや感想をまとめて伝え合う(46.0%)において、全国平均を6～11ポイント下回った。</p> <p>●算数科では、ものの形、ものの位置(73.0%)の問題で、全国平均より0.2ポイント下回り、割合(58.2%)において、全国平均より0.6ポイント正答率が下回った。</p> <p>●理科では、乾電池の働き(55.3%)の問題で、全国平均より2ポイント下回り、振り子の動きとそのきまり(64.8%)において全国平均より4ポイント正答率が下回った。</p> <p>(全国学力・学習状況調査をうけて)</p> <p>●国語科では、漢字を文の中で正しく使う(31.3%)、主語と述語の関係を捉える(57.8%)、人物像を具体的に想像する(62.7%)、人物像や物語の全体像を想像したり表現の効果を考える(71.1%)において、全国平均を1.5～12.1ポイント正答率が下回った。</p> <p>●算数科では、口を用いた式(84.1%)、除数が小数である場合の除数と商の大きさの関係(67.1%)、直方体の見取り図(85.4%)、道のりが等しい場合の速さについて、時間をもとに判断する(28.0%)、円グラフから割合を読み取る(79.3%)、必要なデータを落ちや重なりがないように分類整理する(72.0%)、折れ線グラフを条件に合わせて読み取る(42.7%)において、全国平均を0.1～4.4ポイント正答率が下回った。</p>
--

②課題改善に向けた学校組織全体の重点取組等

重点取組(上記課題を踏まえたもの)	具体的方策(継続して取り組めるもの)	検証指標及び時期
<p>【学力向上について】</p> <p>・基礎学力(四則計算・漢字・読み取り)の定着のための反復学習</p> <p>・全員参加を目指した授業改善</p> <p>・C層の児童を対象にした学力補充</p>	<p>①週2回の帯タイムを活用した基礎と応用の問題の反復練習</p> <p>・(基礎)四則計算、漢字の書き取りなど</p> <p>・(応用)主語述語を中心とした文法問題、グラフや文章等を使った資料の読み取り問題など</p> <p>②全学年全教科等でのR80の実施(必須)</p> <p>③児童同士の学びを深めるファシリテーションを活用した授業改善</p> <p>④帯タイム(週2日)や放課後(月1回以上)を活用した学力補充の実施</p>	<p>○国語科(漢字・学期末の平均)、算数科(学期末)のテスト</p> <p>1・2年…90点以上の児童90%以上</p> <p>3～6年…80点以上の児童80%以上</p> <p>○研究授業後の児童の振り返りから思考が深まったり変容したりしている児童80%以上(教師の見取り)</p> <p>○研究授業後のアンケートにおいて自己の思考の深まりや変容に気付くことができる児童80%以上</p> <p>○NRTにおける課題のあった問題の正答率アップ(学期末)</p>
<p>【学級・学習集団づくりについて】口</p> <p>・安心できる居場所づくり</p> <p>・支持的風土の醸成</p> <p>・児童生徒が主体の絆づくり</p>	<p>①学期に1回以上、担任による児童面談の実施</p> <p>②学期に1回以上、構成的グループエンカウンターやSSTの実施</p> <p>③縦割り班活動の充実(週に3回の掃除、学期に2回以上のイベントの実施)</p> <p>④学校行事の際、学年ごとの目標設定及び振り返り活動の実施</p>	<p>○2回目のQUIにおいて、全学級「親和的なまとまりのある学級集団」。</p> <p>○2回目のQUIにおいて、三次支援が必要な児童の割合1.0%以下。</p>